

**製品名: PARK2 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15755**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	52kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PARK2
別名	PARK2; PRKN; E3 ubiquitin-protein ligase parkin; Parkinson juvenile disease protein 2; Parkinson disease protein 2
遺伝子 ID	5071.0
SwissProt ID	O60260
免疫原	抗血清はヒトパーキン由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 1-50

**背景**

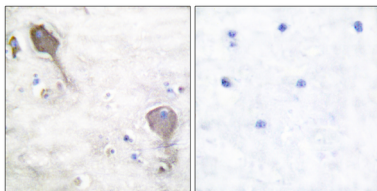
この遺伝子の正確な機能は不明ですが、コードされているタンパク質は、プロテアソーム分解のための基質タンパク質の標的化を媒

介する多タンパク質 E3 ユビキチンリガーゼ複合体の構成要素です。この遺伝子の変異は、パーキンソン病および常染色体劣性若年性パーキンソン病を引き起こすことが知られています。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生成されます。この遺伝子の追加のスプライスバリエーションが記載されていますが、現在のところ転写産物の裏付けがありません。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患: PARK2 の欠陥はパーキンソン病 (PD) の原因です [MIM: 168600]。PD は複雑な多因子疾患で、典型的には 50 歳を過ぎて発症しますが、早期発症例 (50 歳未満) も知られています。PD は一般に散発性疾患として発症しますが、単純なメンデル遺伝形質として遺伝することもあります。

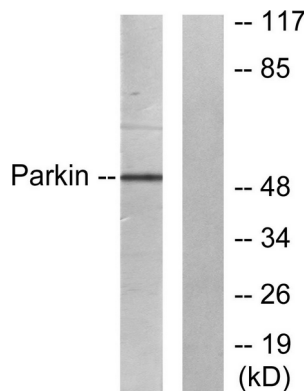
## 研究分野

ユビキチンを介したタンパク質分解、パーキンソン病

## 画像データ



パーキン抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



Parkin 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。